

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇SSH (スーパーサイエンスハイスクール)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望では理系が51.9%、文系が36.1%となっており、理系人材の育成のために本校SSHが果たすべき役割が大きいと考えられる。科学への関心を高める行事についても「適当である」の回答が67.7%と好評であるが、「増やした方がよい(19.0%)」の意見にも応えうる事業内容を工夫していくことも望まれる。 ・本校理数科を志望する生徒の多く(68.4%)が、SSH指定校であったことを選択の理由としており「恵那高校=SSH」という認識が地域の中学生に定着している。SSHに指定されてから14年間、小中学校を対象とした講座や広報活動、地域の企業、研究所と連携した事業を行っており、今後も、系統的な課題研究や論理的思考力の育成などを発展させ、科学技術系人材の育成に力を入れていく。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇課題研究：問題発見能力と科学的探究力を育成する指導法の実践 ◇学校設定科目：論理的思考力と表現力を育成する指導法と実践と改善 ◇探究型学習のパフォーマンス評価の方法の研究開発と試行 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科部内にSSH実行委員会を置く。 ・SSH実行委員会は必要に応じて、各分掌、教科、学年と連携する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 課題研究の指導計画、方法の改善 (2) 学校設定科目の指導内容の改善 (3) 外部機関と連携した事業の展開	(1) 生徒意識調査 (2) 連携先・保護者・教員へのアンケート (3) 運営指導委員会による指導と評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①課題研究：第一学年ではミニ課題研究を反復してテーマ設定を行った。第二、第三学年で深めた探究をまとめ、発表を行った。 ②ディベートと英語による表現の経験を積み重ね、三角ロジックを元にした論理的思考力と表現力を身に付け、使いこなせる実践を行った。 ③探究型学習を繰り返し、主体的・協働的に問題を解決する活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題研究により問題発見能等4つの力が育成できたか。 ②論理的思考育成プログラムにより論理的思考力、表現力が育成できたか。 ③探究型学習の評価方法を開発し試行できたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○第一学年の課題研究では、問題発見を重視した主体的なテーマ設定へと生徒を導く、系統的な指導計画を策定し実践できた。 ○第三学年の課題研究では、進路希望に合わせた多様な探究活動を行った。 ○論理的構造の基本である「三角ロジック」の、探究活動と通常授業への応用が広がった。 ▲課題研究の指導内容と評価法については「身に付けさせたい力」について検討を続け、同じ質の指導ができるための工夫を試行する。 ▲SSH事業を進める上で、教育課程や理数以外の教科との関係をより明確にする必要がある。 ▲地域における基幹校としてSSHが果たす役割を明確にし、一層小中学校や地域の機関と連携を進めていく必要がある。 	
12 来年度に向けての改善方策案 (①手だて ②見通し ③根拠)	<ul style="list-style-type: none"> ①課題研究の内容を高めるため、実施計画に基づき、徒に身に付けさせたい力を再確認し、生徒の変容を把握できる評価方法を開発し、実施していく。また、学校設定科目が探究型学習に効果を与えるような指導方法を実践し、効果がある取組を普通科でも実施し、授業改善に活用する。 ②課題研究と論理的思考力育成の手法は、今後ますます、普通科と通常授業に普及できる。 ③パフォーマンス評価の一つの手法としてのルーブリックは運用を試行しており、今後必要となるマザールーブリックの整備を始めている。また、学校設定科目の教科担任経験者も増え、その手法の試行が、普通科探究学習や通常授業で行われている。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月29日

【意見・要望・評価等】

- ・ディベートはこれからの時代を生きる者にとって大事なこと。考えをまとめ理論的に話す学習活動は素晴らしいと感じた。
- ・ディベートを楽しそうにやっていた。伝えたいことを自分なりに調べてやっているのが立派。人の話を腰を折らずに聞く姿勢を育てているのは良い。
- ・昔のような仲間内での議論は今はないと感じる。今の生徒を、コミュニケーションが取れる人材に育てるためにディベートは必要。仕事は日々ディベートである。そういう術を身に付けることが大切。どんどんやっていただきたい。
- ・ディベートが面白かった。仕事に出ると、データ、論拠をもって説得力ある言葉で伝えていくことが必要になる。どこへ出ても必要な能力を、高校生の今から高めていけるのはありがたい。
- ・表現力を持たない生徒、社会的に苦手な生徒へ慎重な支援も必要。言葉の力や認識力を高めてからでないと難しいのではと感じた。